

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年4月10日
【四半期会計期間】	第31期第3四半期（自 2019年12月1日 至 2020年2月29日）
【会社名】	株式会社 I G ポート
【英訳名】	IG Port, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石川 光久
【本店の所在の場所】	東京都武蔵野市中町二丁目1番9号
【電話番号】	0422 - 53 - 0257
【事務連絡者氏名】	管理担当執行役員 栗本 典博
【最寄りの連絡場所】	東京都武蔵野市中町二丁目1番9号
【電話番号】	0422 - 53 - 0257
【事務連絡者氏名】	管理担当執行役員 栗本 典博
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第30期 第3四半期連結 累計期間	第31期 第3四半期連結 累計期間	第30期
会計期間	自2018年6月1日 至2019年2月28日	自2019年6月1日 至2020年2月29日	自2018年6月1日 至2019年5月31日
売上高 (千円)	6,696,437	6,843,316	8,872,312
経常利益又は経常損失 () (千円)	518,637	348,189	307,696
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 () (千円)	507,899	179,667	179,655
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	569,586	196,559	235,073
純資産額 (千円)	4,722,639	5,172,018	5,036,152
総資産額 (千円)	9,027,367	11,140,037	9,895,868
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期(当期)純損失 () (円)	103.51	36.62	36.61
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	51.7	46.2	50.5

回次	第30期 第3四半期連結 会計期間	第31期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2018年12月1日 至2019年2月28日	自2019年12月1日 至2020年2月29日
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 () (円)	48.19	0.23

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期(当期)純損失については、算定上の基礎となる期中株式数から控除する自己株式数に、従業員インセンティブプラン「株式給付信託(J-ESOP)」制度の信託口が所有する当社株式を含めております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、第30期第3四半期連結累計期間及び第30期は1株当たり四半期(当期)純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第31期第3四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

第1四半期連結会計期間より、当社の連結子会社であった(株)ジーベックは、2019年6月1日付で当社の連結子会社である(株)プロダクション・アイジーを存続会社として吸収合併したことにより、連結の範囲から除外しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更があった事項は、次のとおりです。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(2) 経営成績の変動について

感染症(新型コロナウイルス)の拡大により、従業員やクリエイター、取引会社の社員が在宅勤務での対応や感染した場合、映像制作のすべての工程(プリプロダクション、プロダクション、ポストプロダクション)で遅れが生じる可能性があります。また、アニメーション制作の一部(動画作業)を海外(中国)に発注する場合があります。動画作業を行う企業の従業員の感染により業務遅延の可能性もあります。映像制作の遅れにより納品が納期に間に合わない場合、当社グループの経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、良好な雇用情勢と賃金上昇により、個人消費は緩やかな回復が続いておりました。しかしながら、消費税増税後の消費マインドの悪化、米中貿易摩擦、新型コロナウイルスの感染拡大により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いています。

このような事業環境のもと、当社グループはアニメーション作品の企画・制作を行う映像制作事業、コミック雑誌等の企画、製造、販売及び電子コミックスの配信を行う出版事業、作品の二次利用による印税・収益分配金等を得る著作権事業に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,843,316千円(前年同期比2.2%増)、経常利益は348,189千円(前年同期は518,637千円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は179,667千円(前年同期は507,899千円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

映像制作事業

映像制作事業におきましては、劇場用アニメーション「サイダーのように言葉が湧き上がる」、配信用アニメーション「攻殻機動隊 SAC_2045」、テレビ用アニメーション「ハイキュー!! TO THE TOP」「けだまのゴンじろー」等、その他C用のアニメーションを制作しました。

映像制作事業では、引き続きCG制作費や外注費の高騰、制作期間の長期化により厳しい状況が続いていますが、納品しました一部の作品について改善がみられました。

以上により、当事業の売上高は4,555,699千円(前年同期比2.9%減)、営業利益は143,199千円(前年同期は531,000千円の営業損失)となりました。

出版事業

出版事業におきましては、月刊誌「コミックガーデン」、コミックス「リンカーネーションの花弁 11巻」「転生貴族の異世界冒険録 3巻」最新巻等、定期月刊誌9点、並びに新刊コミックス・書籍81点を刊行しました。

また、既刊コミックスの「リンカーネーションの花弁」「転生貴族の異世界冒険録」は、特に販売好調でありました。書店向け出版売上はほぼ前年並みとなっておりますが、電子書籍売上は好調に推移しています。

マンガドア(漫画配信)の売上は増加傾向で損益も改善していますが、現在は先行投資が続いております。

以上により、当事業の売上高は1,081,869千円(前年同期比38.9%増)、営業利益は116,085千円(前年同期比113.4%増)となりました。

著作権事業

著作権事業におきましては、「進撃の巨人」「サイコパス」「銀河英雄伝説」等のシリーズタイトルを中心に、二次利用による収益分配を計上しました。

将来の著作権収入を獲得するため大型作品への投資先行となってる一方で、前年同期と比較し映像マスター及びコンテンツ資産の減価償却費が減少しました。

以上により、当事業の売上高は1,025,856千円(前年同期比2.6%減)、営業利益は215,380千円(前年同期比496.5%増)となりました。

その他

その他事業におきましては、雑誌のイラスト描きやキャラクターの商品化、スマートフォン向けアプリ等により、当事業の売上高は179,890千円（前年同期比4.7%増）となり、営業損失は36,093千円（前年同期は3,664千円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,244,168千円増加し11,140,037千円となりました。主な要因は仕掛品が665,516千円、受取手形及び売掛金が387,124千円、映像マスターが440,486千円増加し、一方、現金及び預金が208,309千円、コンテンツ資産が108,800千円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ1,108,302千円増加し5,968,018千円となりました。主な要因は前受金が998,751千円、買掛金が125,050千円増加し、一方、受注損失引当金が103,469千円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ135,865千円増加し5,172,018千円となりました。主な要因は親会社株主に帰属する四半期純利益の計上や配当金の支払いにより利益剰余金が154,671千円増加し、非支配株主持分が18,101千円減少したことによるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,000,000
計	15,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年2月29日)	提出日現在発行数(株) (2020年4月10日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	5,055,400	5,055,400	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株 であります。
計	5,055,400	5,055,400		

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年12月1日～ 2020年2月29日	-	5,055,400	-	781,500	-	1,952,715

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年11月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年2月29日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,053,100	50,531	-
単元未満株式	普通株式 2,200	-	-
発行済株式総数	5,055,400	-	-
総株主の議決権	-	50,531	-

(注)「完全議決権株式(その他)」欄には、従業員インセンティブプラン「株式給付信託(J-ESOP)」制度の信託財産として資産管理サービス信託銀行(株)が保有している当社株式148,400株を含めて表示しております。

【自己株式等】

2020年2月29日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社 I G ポート	東京都武蔵野市中町二丁目1番9号	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

(注)上記のほか、連結財務諸表において自己株式として認識している株式が148,400株あります。これは、前記「発行済株式」に記載の資産管理サービス信託銀行(株)が保有している株式であり、会計処理上、当社と信託口は一体であると認識し、信託口が所有する株式を自己株式として計上していることによるものであります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年12月1日から2020年2月29日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年6月1日から2020年2月29日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,497,237	3,288,928
受取手形及び売掛金	931,816	1,318,940
商品及び製品	124,770	146,899
仕掛品	2,840,281	3,505,797
貯蔵品	7,667	8,746
前渡金	32,400	51,150
その他	139,972	157,820
貸倒引当金	938	429
流動資産合計	7,573,206	8,477,853
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	498,994	474,917
土地	658,162	658,162
映像マスター(純額)	241,665	682,151
その他(純額)	102,921	94,144
有形固定資産合計	1,501,743	1,909,375
無形固定資産		
コンテンツ資産	360,459	251,658
その他	39,596	31,946
無形固定資産合計	400,055	283,605
投資その他の資産		
投資有価証券	152,688	172,701
その他	294,092	321,069
貸倒引当金	25,918	24,568
投資その他の資産合計	420,863	469,202
固定資産合計	2,322,662	2,662,183
資産合計	9,895,868	11,140,037

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	616,629	741,680
1年内返済予定の長期借入金	47,002	2,805
未払金	502,861	488,531
未払法人税等	8,867	72,962
前受金	2,635,051	3,633,803
預り金	182,356	228,422
賞与引当金	-	47,299
役員賞与引当金	13,641	7,637
株式給付引当金	-	34,452
返品調整引当金	41,023	42,983
受注損失引当金	204,515	101,045
その他	196,419	168,575
流動負債合計	4,448,366	5,570,198
固定負債		
長期借入金	200,000	200,000
株式給付引当金	35,496	-
退職給付に係る負債	51,827	56,254
役員退職慰労引当金	47,989	51,211
その他	76,036	90,355
固定負債合計	411,349	397,820
負債合計	4,859,716	5,968,018
純資産の部		
株主資本		
資本金	781,500	781,500
資本剰余金	2,132,016	2,132,016
利益剰余金	2,340,502	2,495,174
自己株式	258,417	258,462
株主資本合計	4,995,602	5,150,228
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2,106	2,766
その他の包括利益累計額合計	2,106	2,766
非支配株主持分	42,657	24,555
純資産合計	5,036,152	5,172,018
負債純資産合計	9,895,868	11,140,037

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)
売上高	6,696,437	6,843,316
売上原価	6,474,611	5,684,665
売上総利益	221,826	1,158,651
返品調整引当金繰入額	-	1,960
返品調整引当金戻入額	9,410	-
差引売上総利益	231,236	1,156,691
販売費及び一般管理費	748,292	806,213
営業利益又は営業損失()	517,056	350,477
営業外収益		
受取利息	177	724
為替差益	3,229	-
受取賃貸料	19,877	17,296
補助金収入	1,517	-
その他	2,674	6,953
営業外収益合計	27,476	24,974
営業外費用		
支払利息	1,252	637
為替差損	-	256
賃貸収入原価	14,642	14,429
知的財産関連費用	9,219	6,910
その他	3,942	5,029
営業外費用合計	29,056	27,263
経常利益又は経常損失()	518,637	348,189
特別損失		
減損損失	3,261	57,101
特別損失合計	3,261	57,101
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	521,898	291,088
法人税、住民税及び事業税	50,912	99,204
法人税等調整額	314	5,335
法人税等合計	50,598	93,869
四半期純利益又は四半期純損失()	572,496	197,218
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主 に帰属する四半期純損失()	64,597	17,551
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	507,899	179,667

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)
四半期純利益又は四半期純損失()	572,496	197,218
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	2,909	659
その他の包括利益合計	2,909	659
四半期包括利益	569,586	196,559
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	504,989	179,008
非支配株主に係る四半期包括利益	64,597	17,551

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、当社の連結子会社であった㈱ジーベックは、2019年6月1日付で当社の連結子会社である㈱プロダクション・アイジーを存続会社として吸収合併したことにより、連結の範囲から除外しております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、「The Black Prince」「あまんちゅ!～あどばんす～」「ときめきレストラン」「四月の永い夢」の制作委員会4社は、四半期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。また、「ヴィンランド・サガ」制作委員会は重要性が増したため持分法の適用範囲に含めております。

さらに、当第3四半期連結会計期間より、新たに出資した「攻殻機動隊 SAC_2045」制作委員会を持分法の適用範囲に含めています。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)
減価償却費	793,752千円	592,517千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年8月28日 定時株主総会	普通株式	25,276	5	2018年5月31日	2018年8月29日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託口(J-ESOP)」の導入において設立した資産管理サービス信託銀行㈱(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金742千円を含めて記載しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年8月27日 定時株主総会	普通株式	25,276	5	2019年5月31日	2019年8月28日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託口(J-ESOP)」の導入において設立した資産管理サービス信託銀行㈱(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金742千円を含めて記載しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	映像制作 事業	出版事業	著作権事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,691,978	778,952	1,053,620	6,524,551	171,886	6,696,437
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	4,691,978	778,952	1,053,620	6,524,551	171,886	6,696,437
セグメント利益又はセグメント損失()	531,000	54,398	36,104	440,496	3,664	444,161

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原稿(雑誌のイラスト)や商品販売等を行っています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	440,496
「その他」の区分の利益	3,664
全社費用(注)	72,895
四半期連結損益計算書の営業損失	517,056

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産にかかる重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、「映像制作事業」に係る減損損失3,261千円を計上しておりません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	映像制作 事業	出版事業	版權事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,555,699	1,081,869	1,025,856	6,663,425	179,890	6,843,316
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	4,555,699	1,081,869	1,025,856	6,663,425	179,890	6,843,316
セグメント利益又はセグメント損失()	143,199	116,085	215,380	474,666	36,093	438,572

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原稿(雑誌のイラスト)や商品販売等を行っています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	474,666
「その他」の区分の利益	36,093
全社費用(注)	88,095
四半期連結損益計算書の営業利益	350,477

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産にかかる重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、「映像制作事業」に係る減損損失57,101千円を計上していません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()	103円51銭	36円62銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	507,899	179,667
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	507,899	179,667
普通株式の期中平均株式数(株)	4,906,958	4,906,888

- (注) 1. 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 普通株式の期中平均株式数について、その計算において控除する自己株式に、「株式給付信託(J-ESOP)」制度の信託口が所有する当社株式を含めております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年4月9日

株式会社 I G ポート
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松村 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 英俊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社 I G ポートの2019年6月1日から2020年5月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年12月1日から2020年2月29日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年6月1日から2020年2月29日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社 I G ポート及び連結子会社の2020年2月29日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。